

学生集団の示す現象は時として重要な問題を暗示している。「大学の曲がり角」を予知させてくれたことも。

学生に教わったこと

工学部 教授
渡辺 道昭



昭和 39 年にまず理学部へ。すぐに教養部へ、そして 10 年後に工学部へと移った。一貫して担当してきたのは教養課程（基礎課程）の「微分積分学」あるいは「解析学入門」である。

昭和 40 年代の学生はみんな優秀で恐かった。教える側の私はあれもこれも盛り込んで、ずいぶん生意気な授業をしてしまって恥ずかしい。10 年後には、理・工・農の各学部向の「解析学入門」の講義テキストができた。これらも 10 年後にはもはや内容が専門的過ぎて、使えなくなった。多種多様な方法で入学してきた学生には、もっと多種多様な「解析学入門」の講義を準備しなければならなくなった。「授業を理詰めですすめる」と白けて滑稽にさえなるので「微分積分のスゴロク」という系統図を作って、高校で学んだ定理と大学で学ぶ定理との関係を図で示したりもした。

嬉しかったことを 2 つあげる。私の取り組んでいた偏微分方程式が「土と植物と水」のある現象を記述したものであることを見せてもらって驚かされたこと。量子力学の学位論文完成のためのカギとなる数学の問題を一晩で解いてやって驚かせたこと。やがて私の研究を「理・工・農学に現れる偏微分方程式」とした。私の昭和 38 年の研究論文をもとに「非線形放物型方程式の差分近似による追求」と題する工学部学生向の講義テキストを作っ

て、工学部に移ったのであるが……。工業高校出身者のための補習授業は評判がよい。

忘れてならないのは、集団としての学生からも学ぶことが多かったことである。学生集団の示す現象は時として重要な問題を暗示している。「大学の曲がり角」を予知させてくれたことも。昭和 60 年代の「教養課程を修了できない学生の増加」という現象は「教養課程の大綱化の必要性」を暗示していたのだ。目下の「卒業できない学生の増加」という現象も何らかの「専門課程の改革の必要性」を暗示しているはずである。文部科学省より早く解が見つかることをお祈りしたい。

裏と表

自然科学研究科 教授
高橋 鷹志



日本海側での生活は小学二年生から三年生にかけての約一年間、山形への疎開以来のことであった。当時の記憶にも残っていたが、季節によって激変する気象に改めて驚かされた五年間であった。更には、東京の J R 山手線へ送電する発電所の稼働によって信濃川の水が枯れてしまったという事実を知ったのは「越後妻有アートトリエンナーレ 2000」の一行事に寄せられた中高生の詩からであった。

こうした中央と地方との関係に深く思いを至すようになったのは人文学部教授の古厩忠夫先生との出会いによるところが大きい。1999 年に私が主宰していた人間・環境学会の

退官

今後、生活の質や福祉の向上に資する 環境形成、持続の方途に対して 発言していきたいと考える。

研究会で、先生に講演をお願いしたのがきっかけで、御著書の「裏日本論」(岩波新書)を教えていただいた。また昨年の秋に、日本インテリア学会第8回大会の講演に再度、登場していただき、新潟市民芸術文化会館の能舞台の壇上から「環境のおもてとうら」について御高説をうかがったのである。

「裏日本」という社会的格差の誕生の意味、つまり日本の近代化の過程で「表を支える裏」という構造が社会的発展の原動力となったこと、加えてこの対立関係を国内にとどめずによりグローバルなアジア北方文化圏のなかに位置付けるといった視点に目を拓かされた。今後、このような文化論を基にして、生活の質や福祉の向上に資する環境形成、持続の方途に対して発言していきたいと考える。

このようなきっかけを与えて下さった古厩先生に感謝申し上げる次第である。

私は、沢山のことを彼らから学びました。

来た当初、大学は世間と違うでしょうとよく質問されましたが、運営の原則は、日本の他の組織と同じです。ただ、よく言われる大学の頑迷性、一見非能率性、一見非合理性などは、何でも安易な利便性に傾き易い日本にとって、最後の理性の砦であり、貴重な存在だと感じています。新潟大学については、自由で闊達な学風があり、これからの発展に期待しています。大学の先生は、教育と研究の他に、第三の役割として、NGOなどと行政を仲介するような「仲介」の役割が大切だと思いました。彼等、彼女等は大変な情熱を持って行動していますが、沢山の困難を抱えています。大学の先生の話は割合素直に聞いていただけなので、仲介が可能です。これからも、助けていただくことが多いと思います。よろしくお願い致します。皆さんのご健勝を祈ります。心から、有難うございました。

留学生

- 新潟大学の宝物 -

留学生センター 教授
中村 正董



楽しい五年間でした。新潟大学の先生方、留学生達、日本人学生の皆さん、新潟で知り合った素晴らしい人たちに感謝します。新潟の気候も好きです。あっと言う間に変わる冬の天候も、人間の気分のように、めくるめくような感興を覚えます。

9年に留学生センターが発足して、初めからその運営に関与しました。留学生はその頃の約200人から、ほぼ倍に増えました。留学生会も出来ました。留学生は文化と情報の塊で、変貌を迫られた大学にとっては宝物です。

留学生は文化と情報の塊で、
変貌を迫られた大学にとっ
ては宝物です。